



○「奇跡」(2学期始業式講話抜粋)

誰の銅像かわかりますか?→

短い夏休みも終わり、今日から2学期が始まります。いいスタートは切れそうですか。充実した夏休みは過ごせましたか。3年生にとっては、進路実現に向けて大切な学期です。志を大きく持って受験に臨めるよう、悔いのない2学期を送ってください。日々の授業や家庭学習を大切にして、自分の第一志望合格を目指してください。3年生の姿は、1年後、2年後の1年生、2年生の姿です。時間はあっという間に過ぎて行きます。2年生は、部活動ができる時間があと1年もない人がほとんどだと思います。共通テストまでは1年半もありません。今やるべきこと、今できることにしっかり取り組んでください。



さて、大学時代、毎年春のキャンプで高知に来ていて、ちょうど優勝もしたので、それ以来私は阪神タイガースファンなのですが、先月悲しいことがありました。阪神で6年間プレーした横田慎太郎選手が脳腫瘍で帰らぬ人になったのです。闘病生活を2度も乗り越え、前向きに人生を送ろうとされていた横田選手。ぜひみなさんにも横田選手から直接話を聞いてもらおうと思い、彼のインスタもフォローしていました。その体験談をもとに講演活動をされていたからです。最近更新されず心配をしていた矢先の訃報でした。

闘病生活を綴った自伝『奇跡のバックホーム』は、ドラマにもなりました。絶望に毅然と立ち向かう姿に誰もが涙した感動の実話です。闘病生活から復帰した約3年ぶりの2軍での引退試合。8回表2アウトから交代でセンターの守備についた横田選手。ボールが二重に見えるうえ、距離感がつかめない状況でした。そんな横田選手に飛んできたセンター前ヒットの打球。ほとんどボールが見えないのに、ボールをしっかり捕球し、バックホームに送球をしてランナーをアウトにするというファインプレーをやったのけたのです。まさに、彼のたゆまない努力の軌跡が、奇跡となって結実した瞬間でした。

引退後、闘病しながら、「苦しんでいる誰かの力になりたい。あきらめなければ何かができることを伝えたい。何か一つでいいので、目標をもっていけばうまくいくことも、道が開けることもある」…そんなメッセージを全国の人に投げかけ、多くの人に活力と勇気を与えてこられた横田選手。奇跡は、たゆまない努力や挑戦の軌跡の先に起こるものであるということをお教えました。

彼が阪神で選手からもファンからも愛されたのは、いつでも変わらない“全力疾走”、試合だけでなく練習でも“全カプレー”という姿勢からだったと思います。「生きる」ということも最後まであきらめず闘った横田選手。講演活動も、病床からリモートで行ったり、ある時は右目を失明したため両手をついて階段を上り下りして講演会場に姿を見せたりしたこともあったとききます。私も、彼の生きざまに負けないように、大きな志をもって、人への気遣いを忘れず、自分ができる精一杯の努力や挑戦をしていきたいと思いました。みなさんにも同じ思いをもち日々を前向きに過ごしてもらいたいと願っています。

彼が阪神で選手からもファンからも愛されたのは、いつでも変わらない“全力疾走”、試合だけでなく練習でも“全カプレー”という姿勢からだったと思います。「生きる」ということも最後まであきらめず闘った横田選手。講演活動も、病床からリモートで行ったり、ある時は右目を失明したため両手をついて階段を上り下りして講演会場に姿を見せたりしたこともあったとききます。私も、彼の生きざまに負けないように、大きな志をもって、人への気遣いを忘れず、自分ができる精一杯の努力や挑戦をしていきたいと思いました。みなさんにも同じ思いをもち日々を前向きに過ごしてもらいたいと願っています。